

大豆の9月中旬の巡回調査結果の概要

【東北信】 調査日 9月11日、12日

＜東北信地域の巡回調査地点：東信3地点、北信3地点、計6地点＞

1 ベと病

- (1) 発生地点率は、東信地域では平年と比べ低かったが、北信地域では平年と比べ高かった。
- (2) 発病株率は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ低かった。

2 さび病

東信地域及び北信地域の調査ほ場では、発病はみられなかった。

3 葉焼病

- (1) 発生地点率は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ高かった。
- (2) 発病株率は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ高かった。

4 茎疫病

東信地域及び北信地域の調査ほ場では、発病はみられなかった。

5 ウイルス性病害

東信地域の調査ほ場では、発病はみられなかった。北信地域の調査ほ場1地点で発生がみられたが、発病株率は平年並であった。

6 吸実性カメムシ類

- (1) 発生地点率は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ高かった。
- (2) 寄生虫数は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ多かった。
- (3) 優占種は、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ（写真1）、ブチヒゲカメムシの順でみられた。なお、今年度は大型種であるホソヘリカメムシの発生が平年と比べ顕著であった。



写真1 ホソヘリカメムシ（東信地域）

7 ハスモンヨトウ

- (1) 白変葉発生地点率は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ高かった。
- (2) 食害度は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ高かった（写真2、写真3）。



写真2 ハスモンヨトウの卵塊（北信地域）



写真3 白変葉（東信地域）

8 食葉性チョウ目幼虫

- (1) 発生地点率は、東信地域及び北信地域ともに平年並であった。
- (2) 食害度は、東信地域では平年と比べ低く、北信地域では平年と比べて高かった。
- (3) 優占種は、ウワバ類、ヨモギエダシャクの順であった。

9 アブラムシ類

- (1) 発生ほ場率は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ高かった。
- (2) 寄生虫数は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ少なかった。
- (3) 優占種は、ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ダイズアブラムシの順でみられた。

10 フタスジヒメハムシ

東信地域の2地点と北信地域の1地点において、寄生成虫がみられた。

※本調査は令和5年度から開始されたため、平年値は設定されていない。

【中南信】 調査日 9月19日、22日、24日

＜中南信地域の巡回調査地点：南信2地点、中信8地点、計10地点＞

1 ベと病

- (1) 南信地域の調査ほ場では発生はみられなかった。中信地域の調査ほ場1地点で発生がみられ、発生地点率は平年と比べ低かった。
- (2) 中信地域の発病株率は平年と比べ低かった。

2 さび病

南信地域及び中信地域の調査ほ場では、発病はみられなかった。

3 葉焼病

- (1) 発生地点率は、中信地域で平年並であった。南信地域の調査ほ場では発生はみられなかった。
- (2) 発病株率は、中信地域で平年と比べ高かった。

4 茎疫病

南信地域及び中信地域の調査ほ場では、発病はみられなかった。

5 ウイルス性病害

南信地域の調査ほ場1地点で発生を確認し、平均発病株率は平年に比べ高かった（平年値0.0%に対し、1.0%の発生）。中信地域の調査ほ場では発生はみられなかった。

6 吸実性カメムシ類

- (1) 発生地点率は、南信地域で平年並、中信地域で平年と比べ高かった。
- (2) 寄生虫数は南信地域で平年と比べ少なく、中信地域で平年と比べ多かった。また、発生には、ほ場差がみられた。
- (3) 優占種としてイチモンジカメムシ (写真4)、アオクサカメムシ (写真5)、ホソヘリカメムシが広くみられ、他にクサギカメムシ、ブチヒゲカメムシが確認された。また、すべての発生ほ場で、それぞれの種の幼虫がみられた。



写真4 イチモンジカメムシ幼虫 (中信地域)



写真5 アオクサカメムシ幼虫 (中信地域)

7 ハスモンヨトウ

- (1) 南信地域の調査ほ場2か所のいずれについても若齢幼虫の食害による白変葉がみられた。中信地域の調査ほ場では発生はみられなかった。
- (2) 南信地域の白変か所の平均食害度は平年と比べ高かった (平年値 0.0 のところ 2.5 であり、発生箇所の食害株数、食害程度はわずかであった)。

8 食葉性チョウ目幼虫

- (1) 発生地点率は、南信地域及び中信地域ともに平年並であった。
- (2) 食害度は、南信地域及び中信地域ともに平年並であった。
- (3) 幼虫の寄生は、ウワバ類 (写真6)、ハスモンヨトウ、マメドクガなどがみられた。



写真6 ウワバ類幼虫 (南信地域)

9 アブラムシ類

- (1)発生ほ場率は、南信地域はやや低く、中信地域は低かった。
- (2)寄生虫数は、南信地域及び中信地域ともに平年と比べ少なかった。
- (3)優占種は、ジャガイモヒゲナガアブラムシであった。

10 フタスジヒメハムシ

南信地域と中信地域の各1地点において、寄生成虫がみられた。

※本調査は令和5年度から開始されたため、平年値は設定されていない。